

# 平成31年賀詞交換会

## 偕行社事務局



平成31年1月

8日、偕行社は靖國神社昇殿参拜の後、靖國會館「偕行の間」で賀詞交換会を開催した。

国歌斉唱のち、主催者の森理事長は、参加者へ昨年1年間

の御礼を述べた後、今年も英霊の慰霊顕彰、自衛隊への協力など、事業を着実に推し進めていきたいと述べ、「このような穏やかな新年を迎えることができるのは、靖國におわします英霊の御霊のお陰だと心から感謝をする次第です」と続け、「本日は、杯を重ねて楽しい賀詞交換会にして頂ければと思います」と挨拶した。

続いて、日本郷友連盟寺島泰三会長は、わだかまりのない形での天皇陛下の靖國神社行幸実現と、中国と比較して圧倒的に低い日本の防衛予算伸び率の改善努力を促すとともに、平成が終わり、昭和や大東亜戦争が遠くなると

いうことは、靖國神社も、そして英霊についても遠くなるということかも知れないが、そうならないようにしなければならぬと続け、最後に、今年の干支に因み、「己亥（つちのとい）」というの新しい力を内蔵し新たな創造に向かつて出発するという意味があるが、ぜひ憲法改正へも道筋をしっかりとつける年にして頂きたいと結んだ。

第1師団長の竹本竜司陸将は、陸上自衛隊の大改革について述べ、増える任務に対応するために、組織の効率化と一人で二役、三役をこなす工夫、そして、関係団体との連携を強調し、日本全体として防衛力を上げていく必要があると述べた。

隊友会の先崎一理事長は、新防衛計画の大綱について触れながら、お互いOB組織、いろんな組織と一緒にしながら連携を深めて、少しでもお国のために、また現役のためになる組織になるよう目指していきたいと述べた。

続いて、そのほかのご来賓の方々等の紹介、祝電の披露と続き、水交会の赤星慶治理事長の音頭で乾杯し、懇談に入った。

偕行合唱団の合唱、途中駆け付けられた小田原潔衆議院議員と宇都隆史参議院議員のご祝辞、軍歌演習と続き、最後に、つばさ会の外蘭健一朗会長の関東一本締めで、和やかに終了した。